武術太極拳

WUSHU TAIJIQUAN 1995.9 NO.69

1992年8月7日第3種郵便物認可
1995年9月10日（毎月1回10日発行）
編集・発行
社団法人 日本武術太極拳連盟
JAPAN WUSHU TAIJIQUAN FEDERATION
〒102 東京都千代田区六番町9 九番館ビル2階
TEL.03(3265)9494 FAX.03(3265)9550
発行人 村岡久平
発行日 1995年9月10日（毎月10日発行）
定 価 1部 200円
年間購読料 2,400円（送料込）
郵便振替 00190-4-180187

第3回世界武術選手権大会に56ヵ国・地域が参加

男子刀術で高山、吉田両選手優勝

日本選手全員がメダル獲得 開幕式の日本太極拳代表団集団演武に賞賛の声

「第3回世界武術選手権大会」が8月19～22日の4日間，アメリカ・ボルチモア市のボルチモア・アリーナで国際武術連盟（IWUF）の主催により挙行された。

大会は56ヵ国・地域から役員・選手886人が参加して行われ，過去最大の規模となった。日本からは，役員・審判・選手合計14人が参加し，さらに日本選手団とは別に日本太極拳代表団一行79人が訪米，大会開幕式で24式太極拳の集団演武を披露した。

若手中心の日本選手団大いに健闘 金2・銀5・銅3，メダル総数は10個

日本連盟の村岡久平専務理事を総団長，岡崎温常務理事を団長とする日本選手団は，8月16日に出発し，シカゴ経由でアメリカ東海岸のボルチモアに到着，会場のボルチモア・アリーナの斜向かいに位置するホテルに宿泊し，19日からの大会に臨んだ。

日本選手は，高山守夫監督（日本連盟技術委員長），孫建明コーチおよび李霞コーチ（いずれも日本連盟技術副委員長）の指導のもと，競技日程に合わせてコンディション調整につとめた。若手選手中心で編成された日本選手団は，男子刀術で高山，吉田両選手が同位で優勝したのをはじめ，各選手いずれも大いに健闘して，全員がメダルを獲得した。メダル数は金メダル2個，銀メダル5個，銅メダル3個で，出場した種目すべてに入賞し，中国に次ぐ好成績をあげた。

日本太極拳代表団一行79人が訪米 大好評!!開幕式の太極拳集団演武

世界選手権大会の開幕式は8月19日，盛大に行われた。特に，日本から参加した日本太極拳代表団により披露された集団演武にはひときわ大きな拍手，賞賛の声が寄せられた。

日本連盟の高田明常務理事を団長とし，長谷川凱久常務理事を副団長とする一行79人

日本選手団は開幕式で堂々の入場行進

国際武術連盟 会長に伍紹祖氏（中国・スポーツ相）が就任

ＩＷＵＦ第３回総会 アメリカ・ボルチモア市

加盟は70ヵ国・地域に　次の世界選手権はベルギーで

国際武術連盟（ＩＷＵＦ）の第３回定期総会は，８月18日午前，アメリカ・メリーランド州ボルチモア市のメディソンホテルで開催された。

同総会には56カ国・地域から代表が出席した。日本からは，村岡久平専務理事と岡崎温常務理事が参加した。

ＩＷＵＦ総会は，活動報告を承認し，規約の一部改正などを行った。会費は値上げとなり年額500ドルとなった。新規加盟の17カ国協会を承認，これでＩＷＵＦ加盟は70カ国・地域となった。

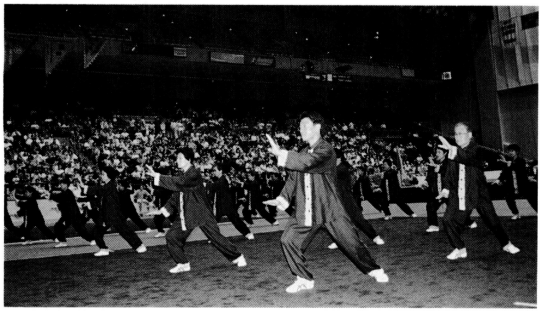
さらに役員の選出が行われ，ＩＷＵＦ会長に中国・国家体育運動委員会主任の伍紹祖氏（スポーツ相，中国五輪委会長）が就任した。副会長２人，執行委員５人は留任した。秘書長に中国武術協会主席の張耀庭氏が選任された。正式に技術委員会が設立され，主任に中国武術協会副主席の張山，副主任に北京武術院院長の呉彬各氏がそれぞれ決った。

最後に，1997年に挙行の第４回世界武術選手権大会の開催地について討議され，最終的にはヨーロッパ地区での開催が望ましいことになり，ベルギーでの開催となった。

あと５ヵ国加盟を目指す 五輪種目への申請まで今一歩

国際オリンピック委員会（ＩＯＣ）の規定により，75ヵ国以上の加盟団体を持つ国際競技連盟（ＩＦ）は，オリンピック種目としての資格取得の条件を満たすことになる。ＩＷＵＦは，あと５ヵ国以上の加盟でその条件を得ることになる。

（11頁に名簿掲載）は，８月17日に出発した。到着の翌日，川崎雅雄監督（日本連盟理事），尾崎春子ヘッドコーチ（日本連盟講師）をはじめ，竹内萬里子コーチ（日本連盟講師），佐藤衛コーチ（神奈川県武術太極拳連盟常任理事），増田尚子コーチ（大阪太極拳協会理事）の指導のもと，現地で初めて合同練習を行い，短時間の練習にもかかわらず，開幕式当日にはみごと整然とした演武を披露して喝采をあびた。



日本太極拳代表団の開幕式集団演武に賞賛の拍手

1990年の北京アジア競技大会の開幕式で日中合同集団太極拳演武は大成功を収めた。その５年後，今度はアメリカ大陸で集団演武の華麗な花を咲かせたことになる。

来秋，マニラで第４回アジア選手権 ベルギーで'97年に世界選手権

大会の開催期間中，国際武術連盟（ＩＷＵＦ）およびアジア武術連盟（ＷＦＡ）の各種会議が開催された。

来年11月中旬に，フィリピン・マニラで第４回アジア武術選手権大会が，再来年にはベルギーで，第４回世界武術選手権大会が行われる。ヨーロッパ地区での開催は初めて。

アメリカで花開いた太極拳
—集団演武に各国から賞賛の拍手—

高田　明

一糸乱れぬ整然とした演武が終った途端，それ迄息をつめたように見とれていた観客席から，割れんばかりの拍手が一斉に沸き起こり，周りにいた各国の役員たちが口々に「ベリーグッド！」を連発して，村岡専務理事や私に握手を求めてきた。

北京アジア大会以来，すっかり日本の“お家芸”となった「太極拳集団演武」は，ここアメリカ大陸で見事に花開いたのである。

到着した翌日，長旅の疲れを癒す間もない中でのリハーサル，最初は隊列もばらばらだったが，回を重ねるうちにぐんぐんと良くなり，本番での大成功。熱心に指導にあたった監督，コーチ陣と，これに見事に応えた団員の熱意と努力に改めて感謝と敬意を表したい。

このたびの集団演武の成功は，太極拳の地位を高め，世界の人達に太極拳の存在を再認識させると共に，武術競技に太極拳は不可欠なものであることを強くアピールしたものとして，高く評価される。

今年11月にベトナムで「東南アジア武術太極拳競技大会」，来年11月にはフィリピンで「第4回アジア武術選手権大会」が開かれる。この国々の代表から，「是非来て集団演武をして下さい」との要望が出された。

特に，ベトナムからは，日本と同数の演武者を準備し，両国合同演武をやりたい，との熱い期待も寄せられた。まさに国際武術界の「名物」となったと言えよう。

＜訪米日本太極拳代表団団長，
日本連盟常務理事＞

急速に伸びるアジア諸国のレベル
—第3回世界選手権大会に参加して—

＜総　評＞ 高山守夫

今大会の日本選手団は若手選手で構成され，国際大会では名前が知られていないということで，若干不安でもあった。しかし，その若手有力選手が健闘し，前大会を上回る好成績を収めることができた。

太極拳種目において，渡邉，井上，藤本の3選手は今回初めての国際大会出場にもかかわらず，堂々たる演技で，渡邉，井上選手が2位，藤本選手3位とすばらしい成績であった。

長拳3種では最終日に刀術で吉田と高山の両選手が同位で1位を獲得，さらに吉田選手は棍術2位，長拳3位と活躍した。女子はミスが目立ちがちであったが，神庭選手が槍術で2位，松村選手が長拳で2位に入った。男子南拳の平井選手も健闘して3位に入った。

日本選手全員がメダルを獲得した結果，金メダル2個，銀メダル5個，銅メダル3個，計10個のメダルを取得し，他の出場種目も6位までに全員が入賞を果たす好成績をあげた。

総合成績ではトップの中国に次ぐ成績をあげて，参加国第2の実力を発揮することができた。しかし，今大会は同点処理を行わず同位入賞者が多かったことと，種目により中国選手の欠場もあったことを忘れてはならない。

各国が若手選手育成に力を注いで，日本，中国を追い越そうとしており，外国選手の体力，スピード，跳躍力などは目をみはるものがある。

日本は技術面，体力面でも今後一層の選手強化が必要であろう。そして，今後の国際大会へさらなる若手有力選手の養成と訓練が必要であることがひしひしと感じられた。

特に，東アジアの国・地域と，東南アジア諸国のレベルの向上は顕著で，彼らの当面の目標は日本を追い越す，という意欲に溢れている，と実感するアメリカの旅であった。

＜日本選手団監督，日本連盟技術委員長＞